令和 6 年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成団体	公益社団法人日本ラクロス協会
事業細目名	スポーツ教室、スポーツ大会等開催（スポーツ）
事業名	第 33 回東日本クラブチームラクロスリーグ戦
助成金額	3,912,000 円

令和 6 年度スポーツ振興くじ助成金スポーツ教室、スポーツ大会等開催（スポーツ）助成を受けて公益社団法人日本ラクロス協会が行っている「第 33 回東日本クラブチームラクロスリーグ戦」の実施状況について調査を行いました。本事業は令和 6 年 6 月から 12 月まで関東地区において実施されるラクロスクラブチーム（主として社会人選手で構成）を対象とした公式戦で、男子チーム約 20 チーム、女子チーム約 15 チームで構成され、男子・女子それぞれ複数のブロックに分かれた総当たりのリーグ戦及びプレーオフの年間約 120 試合を実施するものです。年間を通して、総参加者約 1,300 名（選手・スタッフ・コーチ）、その他関係者約 150 名（大会役員、審判員）観客約 10,000 名を予定する、非常に大きな規模の公式戦です。学生競技者の比率の高い競技ではあるものの、近年では卒業後に就職をして数年競技から遠ざかっていた方々が競技者に復帰し、チームを結成してこの大会に参加するなど、生涯スポーツとして競技者の裾野の拡大という観点からも、大変意義のある大会となっています。

■助成の意義

競技者や団体に自分たちで考えて自主的な大会運営や改善を行っていく風土が根付いていることから、大会開催に際して他者から干渉を受けることがないよう、特定の企業から協賛金を受けずに自己資金と参加費で運営を行ってきたとのことです。数年前から助成を受けることとなり、試合会場として、立地が良く設備の整った施設・有料付属設備の使用ができ、競技者のモチベーション向上に繋がっているとのことです。また、観戦者にも楽しんでもらう等の一歩進んだ大会運営を目指せることができるようになったとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

大会をより盛り上げるため、協会の公式ホームページで大会参加や集客に向けた PR 活動として、本リーグ戦の情報発信を行っていました。

また、各試合の開催日ごとに、大会委員がまとめた実施報告を共有し、運営上のノウハウや注意事項を、次回開催日以降に活用できるようにしたり、全日程終了後に大会出場チームより大会運営に関するヒアリングを行って、次年度に向けた対策をまとめているとのことです。

■その他

安全対策として、AED が設置されている競技場で開催を行っているとのことですが、年間を通しての開催になるため特に夏場の熱中症対策が課題となっているため、水分補給対策だけでなく、

ベンチでの冷房器具等の設置などの対策ができないか考えているとのことです。

■所感

2028 年ロサンゼルスオリンピックの競技として正式に採用され、これから大きな転換期を迎えられると思いますが、この大会を通じてラクロス競技がさらに広く普及され、また、これまでの継続的な活動が競技力の向上にもつながることを期待致します。

（令和 6 年 10 月 5 日往査）

（写真）第 33 回東日本クラブチームラクロスリーグ戦

（写真提供：公益社団法人日本ラクロス協会）



